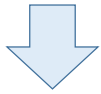


台風19号による断水の影響とシズケアの活用

10月12日の夕方から断水が発生し、全世帯の1/3世帯が断水していると職員メールが入る。



14日 包括支援センターから電話！情報伝わってないよ！



10月12日、台風の影響で県営駿豆水道の水道管が破裂。市内の1/3世帯が断水していると職員メールに情報が入りました。市は給水車の手配とともに、同報無線やホームページ等を使い断水や給水車の情報を流していましたが、14日に包括より、高齢者に断水などの情報がうまく伝わっていないことが発覚しました。

給水車が巡回し始めているが……

断水地域を1～2台の給水車で朝から巡回して給水しているが、給水ポイントと時間も高齢者のみの世帯では把握出来ず、孤立している。

刻々と近隣市町が支援を申出てくれて、定点給水も開始されるが、その情報も伝わらない。

ようやく給水ポイントに辿りついても
重くて水を部屋まで運べない！



断水直後は給水車がメインで断水地域を巡回していましたが、時間の経過とともに近隣市町の支援もあり、定点給水も増えていきました。しかし、高齢者のみの世帯には中々給水場所や時間が伝わらず、また、給水場所が分かっても何キロもある水が重く、家まで運ぶことができない人が何人もいました。

高齢者に情報をどうしたら届けられる？

そうだ！シズケアだ

考える時間も無く、とりあえず市で持っている情報をシズケア登録先に掲示板で全部流す。



掲示板だ！



事業所から続々と情報が入りだす。「給水場所を伝えました」「水を運んでいます」などなど。高齢者施設のなかで、重点給水されていない場所も同時に把握し、手当をすることもできた。

とにかく高齢者に情報を届けるために、市で把握している情報をシズケアの掲示板ですべて流しました。掲示板は情報をUPした際に、FAXの紙媒体でもUPした情報が出るので、忙しいケアマネなどが情報を得やすいと考えました。すると、ケアマネや事業所から担当している高齢者に給水場所を教えた、水を運んだなど、続々と情報が入りました。さらに高齢者施設の中で重点給水されていない場所も把握でき、手当することができました。

断水から5日目にはケアマネや包括から支援の限界・・・という連絡が入り出す



ボランティアセンターの立ち上げを社会福祉協議会と連携。ボランティアの活動を開始する。



事業所での支援ケースを手放してもらうようにシズケアで呼びかけ、ケースについての情報を入手し、ボランティアに繋ぐ。

断水から5日目、断水によりトイレが使用できず、1日に何度も支援を要する方や、断水当初は水が出ていてもタンクの水がなくなり、断水が発表された数日後に水が出なくなる方もいて、ケアマネや包括から支援の限界を訴える連絡が入ってくるようになりました。そこでボランティアセンターの立ち上げを社協と連携。今までケアマネたちが個別に水を運んだりしていたケースを手放してもらい、ケースの情報をシズケアで入手。ボランティアとケースをマッチングさせることができました。

思いがけない使い方だったが、災害時などの情報共有にも有効な場合があることが理解できた。

断水が落ち着いて後に市内の居宅介護支援事業所に対し、断水期間中の高齢者支援数を確認したところ以下の回答を得た。災害時に虚弱な高齢者に対して迅速かつ適切に支援して頂いた介護事業所の皆様に対し、後日研修会の場を借りて謝意を伝えた。事業所以外にも地域の住民同士が支えあって事なきを得た地区もあり、改めて住民同士の絆の重要性に気付くと共に、災害に強い地域づくりと地域包括ケアシステムの地域づくりは同じであると実感しました。

	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
事業所数	8か所	8か所	8か所	8か所	8か所	6か所	2か所	1か所
人数	30人	50人	30人	25人	15人	5人	4人	1人

《スライド読む》